

NPO法人民間学童保育所による子育て支援

- B学童保育所の実践をとおして -

元東京医療保健大学 塩田 公子 (03683)

[キーワード] 子育て支援、NPO法人、民間学童保育所

1. 研究目的

NPO法人民間学童保育所における子育て支援について、参与観察(2001年4月~2011年5月)及び学童保育関係書類から現状を知り、今後の課題を検討する。

2. 研究の視点および方法

研究の視点

小学生の子育てをしながら、働く女性は増加している。放課後に子どもを預ける学童保育所は、公立と民間がある。2007年放課後子どもプランの全児童対策の実施により、保護者間で学童保育の選択について話題になった。今回は、国内ではまだ少ないNPO法人民間学童保育所による子育て支援について調査する。NPO法人B民間学童保育所は、国内で1番児童数が多い(2008年5月)、埼玉県A小学校地域の子育て支援をしている。

方法

埼玉県のNPO法人に関する資料及びB民間学童保育所作成資料等(2001年4月~2011年5月)を収集し、NPO法人B民間学童保育所の参与観察による子育て支援の現状から、今後の課題を検討する。

3. 倫理的配慮

調査対象者が特定できないように配慮する。

4. 研究結果

2006年8月に行われた埼玉県による「NPO実態調査」によれば、埼玉県認証のNPO法人は656団体で、2000年以降に設立された団体は269団体と多いことがわかった。活動分野は、「保健・医療又は福祉の増進を図る活動」45.4%、次に「子どもの健全育成を図る活動」が33.3%となっており、「子どもの健全育成を図る活動」をしているNPOの学童保育所はまだ少なかった。(2008年5月)

埼玉県では、NPO活動推進助成事業があり、事業を実施するNPO基金登録団体に助成金を交付している。B民間学童保育所は、2001年11月からNPO法人になり、埼玉県の助成をうけて「子どもの健全育成を図る活動」「まちづくりの推進を図る活動」「男女共同参画

社会の形成の促進を図る活動」を継続している。

埼玉県A小学校は、児童数 1,362 人 38 クラスあり、国内で 1 番児童数が多かった。この小学校の地域には、民間学童保育所が多くあり、利用者も多い。60 名の 1~6 年生が B 民間学童保育所を利用していた(2008 年 5 月)。それから 3 年後の利用数は、39 名(1~6 年生)であり、利用人数が減少していた。

埼玉県A小学校は、国内で 3 番の児童数になったが学級数はかわっていない。利用者数の減少は、2008 年頃から放課後の小学校の教室を利用し、公立の学童保育がはじめられたことが影響している。同じ時期に市内の民間学童保育所を統一運営にするかどうか議論され、その後、統一運営が実施された。

B 民間学童保育所では、子育て支援として、放課後から通常 19 時(月~金)まで保育をしている。子ども達は、学校の宿題をしたり、ドッチボール、野球、虫探し等をする外遊びや、工作、こま、ごっこ遊び等の内遊びをしたり楽しく時間を過ごしている。また、サマーキャンプ、遠足、クリスマス会、ボーリング大会等の行事も実施されている。毎月 1 回、保護者会を開き、子ども達の様子を指導員から聞き、指導員と保護者の子育ての連携をとるようにしている。

統一運営になる前と B 民間学童保育所はどのようなところが変わったのだろうか？

民間学童が NPO 法人として連携することにより、経営が安定した。

保育する場所の家賃が市から補助されるようになった。社会全体が子育て支援に関心を持ち、子育て支援しようという考え方の理解が深まってきている。

保育料は統一運営の NPO 法人になってから値下げされ、利用しやすくなった。

学童の指導員は、継続して勤務している。指導員が経験年数を積み、指導員が安心した気持ちで保育を行っているため、子ども達の情緒が以前と比較し、とても安定している。

障害児の入所がない場合には、市からの補助金がないため、経営上きつくなることもある。その場合は、保護者が学校付近の公園等でバザーを行い、資金を補うようにしている。

統一運営にしたことは、各民間学童の経営を安定化し、良い結果が得られている。

今後の課題は、母親達が安心して働くことができるように、市の指導員を対象とした研修の継続や学童の指導員が継続して勤務できるような体制を整えていくことが大切である。指導員は保護者や学校と連携し、子育てを支援する専門家として今まで以上に評価され、雇用条件が改善される必要がある。また、緊急時の対応をどのようにしていくのか、保護者とよく相談しておくことも大切になってきている。

今後、B 民間学童保育所のように、NPO 法人として助成をうけながら、活動していく民間学童保育所は増加していくことだろう。